

近畿内の不登校児について

——実態と課題——

診療情報管理士学科

【はじめに】

不登校とは、文部科学省の「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」において、年間30日以上欠席した児童生徒のうち、「欠席理由が何らかの心理的、情緒的、身体的あるいは社会的要因・背景により登校しない、あるいはしたくともできない状況にあるもの」である。

大阪府では、年々と増え続けており、文部科学省の不登校問題に関する調査研究協力者会議における「今後の不登校への対応の在り方について（報告）」で、「不登校に関する取組みの改善を図ることは、我が国社会にとって喫緊の課題であって、早急に具体的な対応策を講じ、実行する必要がある。」と述べられている。

そこで本研究では、大阪府と近畿地区の兵庫県と和歌山県ではどのような対策をしているのかを明らかにし、今後の方策を検討することを目的とした。

【本論】

大阪府と近畿地区で一番不登校が少ない兵庫県、近畿地区で最低値と最高値の差が一番大きい和歌山県の三つの県の不登校に対する対策や指針を調べた。

1.大阪府

大阪府は不登校を未然に防止することに力を入れている。小・中学校ともに全体の取り組み、個別の対応をしている。

2.兵庫県

兵庫県の明石市と小野市では、不登校生を出さないための対策・不登校生への支援を立てている。

3.和歌山県

和歌山県は、早期発見・アセスメント・支援計画・復帰支援、継続的な見守り、面談や家庭訪問等のケアをして復帰させるというサイクルを不登校の生徒に対する対策の手順として掲げている。

【対象および方法】

大阪府と兵庫県、和歌山県の三つを対象にし、不登

校の現状や各都道府県の考え方や対策などについて比較した。

方法については、各都道府県や不登校に対する考えや対策などが記載されているHPを使い、平成21年から平成28年までの実数を集め統計を取り、不登校に対する対策や考えを調査した。

【結果と考察】

大阪府と同じ近畿圏内の兵庫県と和歌山県における不登校の実数と対策について調べた結果、大阪府だけではなく、兵庫県や和歌山県においても減少している年もあるが、全体的に増加傾向にあることがわかった。

考察として、対策は都道府県や市町村で立てているが、各個人に対しての対策が少ないように感じた。したがって、都道府県や各市町村の対策は不登校への対策の目標や基盤とし、一人一人に対しての対策を立て、対応していくことが大切なのではないかと考えた。

【まとめ】

本研究では本学校のある大阪府で年々増えている不登校について、今後、不登校の数を減らしていくために、同じ近畿圏内の都道府県と比較した。全体的に増加傾向にあり、小学校に比べ中学校の方が不登校率の増加が窺えた。また、不登校に対する取り組みと実数が必ず比例しているわけではないことがわかった。対策を立て、実施しているところが必ず不登校の数が減少しているわけではない、不登校に対する対策を考えていかなければならないことが今後の課題と考えられた。

【文献】

- 1) 伊藤美奈子・相馬誠一・他：不登校の現状「不登校は減ったのか」。The Annual Report of Educational Psychology in Japan. 47, 2008, 20-21.
- 2) 大阪府「大阪府の不登校施策の考え方」(internet)：
<http://www.pref.osaka.lg.jp/jidoseitoshien/hutoukou/hutoukou.html>
- 3) 和歌山県教育委員会：不登校問題対応の手引き。和歌山, 2014, 1-6.